研究班番号【 18 】

習得が簡単な言語を探る～バイリンガルへの第一歩～

国語班:坂口　昂太郎、井本　響、皆川　藍音

Abstract

The purpose of this study is to reveal a way to create a new language which is easy to learn and we can communicate with it.It was found that sentences which are made by many polysemous words make mismatches because of differences of the backgrounds, situations and interpretation of the words from the researches and experiments.So, in this study, setting a clearly background of a sentence and determining how to use polysemous words help to use the language created in this study.

要約

本研究の目的は習得が容易であり、なおかつ意思疎通が可能な言語の作成方法を探ることである。調査、実験によって、多義語を多用することで単語数を少なくした言語によって生成された文はその文の背景や状況、そして多義語の意味の解釈の違いによって、文の解釈に齟齬が生まれることがわかった。よって本研究では、文章背景の明確な設定、多義語の使用法の確定を行えば、本研究で使用した単語数の少ない習得が容易な言語でも意思疎通ができると結論付けた。

1.　はじめに

現在、世界中で使用されている言語には、様々な文法やルールが存在する。その習得には多くの時間を必要とし、日常生活で使用することは容易ではない。例えば、私達にとって身近な言語である英語は、日常会話に必要な単語数がおよそ3000～4000語あり、その習得にかかる時間は1000時間程度と言われている。そこで、本研究ではより短時間で、かつ容易に習得することが可能な言語を作成することを目指した。

2.　研究手法

人類のコミュニケーションに必要な条件について調査を行い、その成立に最低限必要な語彙や文法を抽出し、現在の言語から必要性の低いものが取り除かれるようにそれらの要素を探った。

≪研究1≫

ロシアの言語学者Roman Jakobson（ロマン・ヤコブソン）が著した論文「言語学と詩学」の中で述べられているコミュニケーション論の記述から、コミュニケーションの成立に必要な条件を探る。

≪研究2≫

カナダの言語学者Sonja Lang（ソニャ・ラング）によって作成された、約120個の単語で構成される、習得が容易な人工言語であるToki Pona（トキポナ）を使用する。この言語の不十分な点を抽出し、その部分を補うことによって、使用に不便さを伴わない理想的な言語を作成する。

①日本語で例文を作成し、Toki Ponaに翻訳する。

②翻訳した文章を別の班員が日本語に再度翻訳する。

③解釈の不一致が発生したり、翻訳不可能な部分を改良し、理想的な言語に近づける。

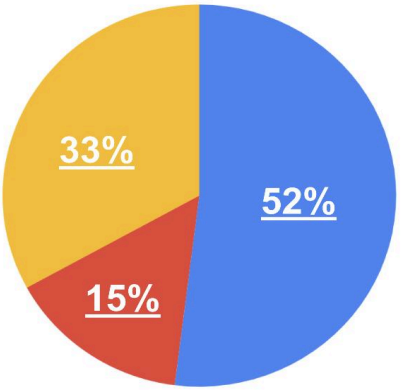
3.　結果

≪研究1≫

コミュニケーションには6つの因子（発信者、受信者、メッセージ、コンテクスト、コード、接触）が存在し、これらには一つ一つに相違なる言語機能が対応していることが明らかになった。

≪研究2≫

翻訳した100個の例文のうち正しく伝わった文は52文で、一部は通じたが多義語を使用しているが故の翻訳違いが発生したのは15文、そして全く伝わらなかった文が33文であった。



「ANNA pi meli jen lawa」
(ANNA=アンナ{人名}、pi=〜は{主格}、meli=女性、妻、jan=人、lawa=率いている)
再翻訳した日本語:アンナは女性社長だ
翻訳前の日本語　:アンナは女王だ
このように時代背景などによって解釈が異なってしまうことが多数あった。
「kon sewi pona」
(kon=空気、風、匂い、精神、sewi=高い、礼儀正しい、pona=良い、簡単)
再翻訳した日本語:上機嫌だ
翻訳前の日本語　:快晴だ
このように多義語が用いられることによって単語ごとの意味の解釈に差が発生し、文全体の解釈にも大きく影響が出てしまう文も発生した。

4.　考察

≪研究1≫

明らかになった6つのコミュニケーションの成立に必要な因子の中で最も重要なものは、言葉で表すその場の状況や場面を表す「コンテクスト」であると考えられる。つまり、共通の背景設定を話し手と聞き手の間で定めることは会話を成立させ適切に意思疎通することを可能にするため、コミュニケーションの根本に深く関わっていると考えられる。

≪研究2≫

Toki Ponaはそれぞれの単語が複数の意味を持っている多義語であることにより意思疎通に影響を及ぼしているため、ある一つの文章においても複数の意味、解釈が発生してしまったと考えられる。

5.　結論

Toki Ponaに翻訳した文章は現状、受けての想像力に依存する割合が高いことが事実である。本研究が目指す言語像は、用意に習得ができることに加え、解釈に齟齬が生じないことが重要である。故に、さらに本研究の言語に客観性を持たせるために工夫と改善が必要である。その例としては、多義語の使用法を明確に確定することなどがあげられる。しかし、その確定には言語習得の難化を防ぐ必要があるため、今後の課題である。

6.　参考文献ならびに参考Webページ

朝妻　恵理子『ロマン・ヤコブソンのコミュニケーション論』 2009-5-21.
https://src-h.slav.hokudai.ac.jp/publictn/slavic-studies/56/08asazuma.pdf（参照2023-7.）
jan nesapa (2021)『トキポナ学習動画』https://www.youtube.com/@jannesapa8360/videos
Jakobson Roman (1979)『言語学と詩学』